

令和2年度第1回学校運営協議会 議事録

- ・期日 令和2年7月15日(水) 午前9時30分から11時30分
- ・会場 本校会議室、
- ・参加者 影山富士彦氏(沼津市第五地区西連合会副会長)
三浦靖幸氏(東部社会教育振興協議会)
後藤譲治氏(特定非営利活動法人ティンクル施設長)
片岡亮太氏(和太鼓奏者・社会福祉士・本校卒業生)
S氏(本校保護者)
T氏(本校保護者)

本校職員 校長 馬場俊一 教頭 谷山和広 事務長 経田美和
オブザーバー 小岱和代氏(静岡大学教職員大学院)

自己紹介、日程説明

(1) 校長あいさつ

- ・2月末の臨時休校要請から現在に至るまでの経緯を説明

(2) 校内参観 高等部から幼小中へ

(3) 令和2年度学校経営の方針等の説明(校長)

- ・目指す学校像として 5つの『～がいのある学校』で示した。
- ・教育目標に「必要な支援を依頼でき、それに感謝できる人」を追加した。
- ・柱のアには情報保障の重要性についての項目を追加した。
- ・柱のイの達成方法の「年齢や発達に応じた生活習慣の育成」では、高等部の成人を意識して「年齢や」を追加した。
- ・柱のウの理解推進活動は、コロナ禍のため、実施できないことが多い。



(4) 参加者からの感想、意見 等

①片岡氏

- ・体力作りについて

視覚障害の特徴的な姿勢として、点字の使用や白杖歩行などによる、やや前傾で肩がずっと前にある状態になりやすい。基本姿勢が崩れて、身体イメージが作りにくくなってし

まう。よい姿勢を指導して欲しい。

→姿勢が悪いのはずっと気になっていた。身体イメージで、「腕を伸ばす」と言った時に、肘を伸ばせない場合が多い。とても重要なことなので、改めて意識していきたい。



・進路指導について

コロナ禍のために、普段なら国外にいる人材が国内にいる場合がある。今だから国内にいる人に声を掛け、講演を聴くことで見聞が広がるかもしれない。

情報保障について

経営案に情報保障が入っているのはとても素晴らしい。先生方の意識だけでなく、もっと社会に広げて行って欲しい。給付金

でのオンライン手続きなど、ウェブで情報が提供されたが、そのほとんどが視覚障害者では一人でアクセスできないものだった。まだまだ不平等な状態だということを、社会に伝えるとともに、子どもたちにも教えて行って欲しい。

②後藤氏

生活習慣の育成で成人を意識した「年齢を」を加えたのはよい。施設にいる成人でも、服薬を忘れて体調を崩し、休む場合がある。どの年代でも、生活習慣を整えることは重要。

また、「自分から依頼できる」というのは非常に大切。施設でも報告が「終わりました。」だけの場合がある。終わって、次にどうして欲しいのかを言えない。やはり自分で言えることが望ましい。

③三浦氏

教育目標に追加した「必要な支援を依頼でき、それに感謝できる人」は素晴らしい。実際にはどうするのか。地域との接点や交流がよいと思うが、どうか。

→学校間の交流は、県内8月末まで禁止されている。9月以降について、ようやく今動き始めたところ。コロナ禍にあり、どの程度出来るかわからないが、進めていきたい。地域については、現状を影山さんからお願いしたい。

④影山氏

この会に参加するにあたり、地域のみなさんの意識調査を行った。その結果、「自分が通った学校ではない」というマイナスな面もあるが、プラスな意見が多かった。災害時に出向く場所として認知されている。また、入学式や卒業式などの儀式へ参加、5月にはマンホールトイレの設置訓練、年2回の防災訓練など多く関わりを持ってている。六星祭もとて

も素晴らしい。子どもたちの声で、元気をもらっている、という話もあった。マッサージ奉仕では、体を楽にしてもらうだけでなく、お話しすることでとても癒やされている。地域として「何ができるか」を考えていきたい。10数年前まで、門の前の道はゴミが多かった。すぐ前の方が、「ゴミを見掛けたらすぐ片付けよう」といいだし、実践してきた。以前は植え込みにゴミがつっこまれていたが、今ではなくなった。環境がきれいになれば、心もきれいになる、今後も続けていきたい。

→そのような経緯があるのは知らなかった。職員で周囲のドブさらいをした時も、泥はあるがゴミはほとんどなかった。今後も協力していきたい。また、地域の方に協力してもらって治療室も、数年ぶりに実施する予定だったが、コロナ禍のため実施できずにいる。早く始められることを願っている。

⑤ S氏(保護者)

「自分から依頼できる」はすごく大切。今、自分の子どもに一番求めているところ。うまく先生方が指導してくれている。先日、連絡帳でゆうちょの貯金箱コンクールの話があったが、仕事で子どもに協力する時間が取れなかった。すると、子ども自身から担任に「学校に来てから作る時間が欲しい」と言ったそうだ。その話にびっくりしていたら、お迎えの時に、「材料で〇〇が欲しいから100円ショップによって欲しい」と自分から言ってきた。成長にとっても驚き、嬉しかった。親がいつまでも生きていられるわけではないので、もっと自分から言えるようになって欲しい。



⑥ T氏(保護者)

やはり「自分から依頼できる」はとても大切。自分の子どもは、表現がうまくできず、「あれして」といわれても、「あれ」がわからない。具体的に説明できるようになって欲しい。先日の授業参観では、ICTで大型ディスプレイに漢字の書き方を表示していた。書き順もわかるようになっていた。視覚特別支援学校ならではすごいと思った。自分の子どもは、全体は見えても、細かいものは目を近づけなければ見えない。そのためか、文字への興味が薄い。興味を引くためにもICTはありがたい。反抗期なのかかっこつけたがるようになり、話を聞かない俺ってかっこいい」などと思っているようだ。それでも、学校を楽しみに通ってくれていることはとてもありがたい。

⑦片岡氏

当事者の立場からお願いしたいことがある。「自分から依頼する」ということは「自尊心」と表裏一体である。「お願いします」というたびに、プライドが崩れかねない。できることを増やしてもらうことが大切。こうすればできる、ああすればできる、を繰り返し、それでもできなければ依頼する。今回コロナ禍で在宅時間が長くなり、家庭内で自分で出来ないことが多くわかり、心が痛かった。柔軟性のある子どもの頃から、できることを増やしてあげて欲しい。



⑧教頭

「自分から依頼できる」について、みなさんが重要視していることがわかった。教員が支援しすぎると、後藤さんがおっしゃったように、本当は自分でできることまで、できなくなってしまう場合がある。自分でできることは自分でできるように、できないことは依頼できるようにするというさじ加減がとても難しい。教員の中では、支援しない支援というのも意識している。片岡さんがおっしゃったように、できることを増やして自尊心を維持しつつ、できないことは依頼できるようにしていきたい。「みなさんの目指しているところは同じ」と感じられた。とてもありがたい意見だった。

(5) 不祥事根絶に向けた取組について

職員心得チェックで、AB80%以上が32項目中31だった。素直にとってよいのか悩むが、意識はしてくれている。唯一「同僚に関すること」で、「同僚の気になることは声を掛けている」が低かった。やはりなかなか言いにくいのかもかもしれない。しかし、「同僚からのアドバイスは謙虚に受け止める」はよい数字なので、見守りたい。

本日はたくさんの貴重な意見をありがとうございました。